

## 読み取ったことをもとに、自分の考えを書こう

国語 第1学年

穴水町立穴水中学校

## 1 事例の概要

本校では、活用力向上をめざす取組として、「活用型」の発問を取り入れた授業実践を行っている。「活用型」の発問は、PISA型読解力における「熟考・評価」の問いに相当し、「テキストから読み取ったことを根拠に挙げて、自分の考えを論理的に表現することを求める発問」である。

「活用型」の発問を取り入れた授業では、次のような活動を展開する。

- |   |   |
|---|---|
| 1 | テキストから情報を読み取る（→主に「判断力」が求められる）<br>テキスト（文章や図表、映像その他の資料、実演等）から読み取れる事実、特徴や傾向、筆者の意見等の情報を正しく理解する。         |
| 2 | 自分の考えとその根拠を書く（→主に「思考力」が求められる）<br>自分の立場を明らかにしたり、自分の考えを述べたりといった言語活動を行う。ただし、その根拠をテキストから挙げる。            |
| 3 | 自分の考えを表現する（→主に「表現力」が求められる）<br>自分の考えを「話す」「発表する」「つくる」「描く」「歌う」「奏でる」「実験する」「観察する」「演技する」「運動する」などの方法で表現する。 |

そして、1の読解と2、3の表現とをつなぐのが「活用型」の発問であり、「あなたはどうか」「あなたならどうするか」「あなたは賛成か反対か」「あなたはどれを選ぶか」という問いで多様な考えを求める。これによって思考力・判断力・表現力が三位一体で働くことをねらうものである。

本事例は、第1学年1学期の授業で、中学校で初めて説明的な文章を学習する単元である。そこで、文例の骨子を提示することによって、「なぜなら～からです。」という論理的な書き方で自分の考えを述べることに慣れさせたいと考えた。

## A-1 学校研究

## 2 実践内容

## (1) 単元の目標

- |                                    |                |
|------------------------------------|----------------|
| ① 筆者の考えを理解し、自分の考え方や見方を広げようとする。     | 【国語への関心・意欲・態度】 |
| ② 段落の要点や要旨を読み取り、文章の構成をとらえることができる。  | 【読むこと】         |
| ③ 読み取ったことをもとに、自分の考えを書くことができる。      | 【読むこと】         |
| ④ 言葉の単位とその働きについて理解することができる。        | 【言語事項】         |
| ⑤ 偏旁冠脚や部首の相違を、成り立ちに着目して把握することができる。 | 【言語事項】         |

## (2) 指導上の工夫点

## ① 指導法の工夫

- ・「活用型」の発問を取り入れる。また、その際には『「活用型」の発問のワークシート』を利用して指導案を作成する。
- ・課題解決型の授業を実践し、導入の工夫に努める。

## ② 指導重点目標の設定

- ・活用力に関わる指導重点目標を教科で設定し、思考力・判断力・表現力を高める工夫を行う。

国語科で設定した目標は「文章の内容を的確に読み取る力を育てる。」「自分の考えを論理的に表現する力を育てる。」の2点である。本単元では、まず、挿絵を利用して文章の構成をとらえさせる。また、自分の考えをなかなか書き出せない生徒のために、次のような例文の骨子を提示する。

「わたしは、○○○○を選びます。なぜなら、○○○○は□□□□なので、それを使って△△△△を試してみたいと思うからです。」

③ 学習定着のための工夫

- ・「活用型」の発問を授業に取り入れ、論理的な短作文を書く経験を繰り返す。

**B-1 「活用型」の発問のワークシート**

3 指導の実際

過程	配時	学習活動と予想される生徒の反応 ＜活用型の発問＞	指導上の留意点（・） 評価（●） 支援（○）
展開	15	3 読み取ったことをもとに考えを書く ＜もしもあなたがクジラたちのような音を種類出せるなら、クリックとホイッスルのどちらを選びますか。その音のよいところにふれて、理由も書きなさい。＞ ・ クリックを選ぶ。なぜなら、暗いところで活動するのに役立つから。 ・ ホイッスルを選ぶ。なぜなら、水の中でも歌うことができるから。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書き出しの部分や、理由を述べる部分の表現を提示し、書きやすくさせる。</li> <li>● 読み取ったことをもとに、自分の考えを書いている。（作文）</li> <li>○ クジラが出す音の特徴を再確認するよう助言する。</li> </ul>
	20	4 考えたことを発表し合う ・ 各班で全員が発表する。 ・ 班の代表者が発表する。 ・ 発表についての感想を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級掲示の「話す態度」「聴く態度」を意識しながら発表させる。</li> </ul>

**C-1 指導案**

**C-2 生徒の作文**

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 「活用型」の発問を取り入れたことで、生徒は自分の考えを持ちやすくなり、自分の立場を明らかにしてから「なぜなら～からです。」という表現で理由や根拠を挙げる述べ方に慣れてきた。
- ② 課題解決型の授業を行い、導入の工夫をしたことで、生徒は興味や見通しを持って課題に取り組むようになってきた。
- ③ 活用力に関わる指導重点目標を設定し、思考力・判断力・表現力を高める工夫をしたことで、生徒は積極的に課題を解決したり、進んで伝え合ったりするようになってきた。

(2) 課題

- ① 学習意欲の向上と基礎・基本の習得のために、課題作りなどの授業改善や学習習慣の確立を図る取組を充実させることが大切である。
- ② 仲間との交流によって一人ひとりの考えが深められるよう、グループ学習に必要なリーダーや、互いの考えを話し合える人間関係、互いに高め合う姿勢を育成することが大事である。